
無駄慰

滑稽

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無駄慰

【Nコード】

N0134A

【作者名】

滑稽

【あらすじ】

茹だるような夏。少年は静かに問いかける。終われるのかと

壊れてしまえばいい。

羽螺羽螺に薔薇薔薇にバラバラに。

求めるのは、要求するのは懇願するのは
…。

自我の破壊 ああ、簡単な事なのに。

なんでもいい。

どうでもいい。

終わりたい。

終わりたい。

終わりたい。

苦しいんだよ、痛いんだよ、止まらないんだ。

留まらないんだ……。

誰かに救いを求めてしまいそうになってしまう。

駄目なのに駄目なのに……。

自分で終わらせなきゃ、他人を頼ってなんかいけない。
それだけはいけない事。

汚いもの。腐っているもの。醜いもの。それなのにそれなのに……
……僕は好きになってしまったのです。恋い焦がれて想って想って
この気持ちに何と名前を付ければよかったのですか？これが『恋』
これが人を愛するという事。軀がキツい君が誰かのモノになってしま
まうのでは無いか。という焦燥感。ぢりぢり喉を焼く。だから
だからだからだからだから僕は君を破壊しました。髪を引き抜いて
安っぽいナイフで皮膚を幾度も抉り時折君に口付けを与えながら。
何回も何回も叩きつけ君の甘い狂おしい程の蜜を舐めとり。右手は
ちぎれて何処かにいってしまったから左手で君の右目をくり貫いた
よ硝子の破片は僕の左手も染めあげてしまったけど。同じように君
の右手も染めあげられているから。ああ君が見えにくいよ。暗闇
が僕に圧しかかってくるよ。僕は困ったように君に微笑んだ。君は
僕と全く同じに微笑んだ。それだけそれだけ。人を愛せなかった僕
にはピツタリの終わり形。残ったのは割れた鏡と僕だけ全てが燃え
つくような夏のある日に僕はやっと壊れて終われたのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0134a/>

無駄慰

2010年10月14日20時51分発行